

温泉旅館 大西流“作品づくり”

60周年おめでとうございませぬ。これまでの60年、我が国の産業政策は一言では云えば産業振興・企業育成。その成果は、エコノミックアニマルと揶揄されながらも、一時的にせよ世界第2位の経済大国にまでなった。これからはどうか。一方でグローバル経済が云われ、他方、様々な面での格差が懸念されている。先行きは依然として不透明、どころか不安に感じている人も少なくない。

大西さんは、自らちよつと変わった旅館経営者を自称しながら、「商品づくりではなくて『作品づくり』」と言われる。その『作品づくり』は注目に値する。それは観光の観光たる所似が、単純にコスト&ベネフィットで測り切れない価値観、人間の五感で感じる喜びや感動を第一義的に大事にしなければならぬ。『手作り』、『粗悪品』が店頭に並び、『付加価値』という名の『無駄』を誰がどう判断するか、難しい時代でもある。しかも金融・税制など我が国の経済体

制、経営環境の中で、この事業を軌道に乗せて行くことは口で言うほど簡単なことではない。逆に言えば、旅館業を含めた観光事業に関わる、面白さのひとはここにあり。21世紀の日本が世界で生き残るための大事な『柱』のひとつは、本物の観光交流事業の推進であることは間違いない。その土台となるのが、『美しく魅力ある国土づくり』、地域づくりである。そしてその担い手は地場産業として地域に根ざした旅館の存在とこの仕事に関わるプロフェッショナルな人たち、人材だ。関係者一人一人がそれぞれ持っている『五感』を研ぎ澄まし、現場、現地を『歩いて』、地域の『美しさ』や『魅力』を再発見・再認識し、共有することが、『輪』を広げていく出発点になる。

交遊抄

観光シンクを追い求めれば求めるほど、タンクの大御と大切な多くのものを失所、原重一氏「うんだよ」と熱く語られた。との出会いは、

二十年近く前、改革の鮮烈なスタートにさかのぼる。知床で開かれた女将会での講演を思い出した。氏の人脈に連なる多くの人々が集まってくれた。その一人、野口哲子氏も我が町の恩人である。町の人々ばかり集まっても町づくりはできない。そんな叱咤に奮起、女性だけの「まりも倶楽部」が誕生した。今、最も元気がいい町のけん引車だ。

我が町の恩師

大西 雅之

私たちの阿寒湖温泉は、マリモで有名な町だが、業の指定を受け、昨年、団体旅行の激減で大きな危機に直面していた。方、民一丸となり成功させ向性を見失っていたとき、阿寒の新生はまだ長に町の重鎮たちを集め、い道のりだが、多くの恩人たちに心から感謝したい何人のお客様が来てくれたら満足するか。数々、鶴雅グループ社長

■日本経済新聞 2007年4月7日付(全国版)



観光開発プロデューサー

原 重一氏

地域とともに生きる

60年にわたり阿寒湖の地を拠点に飛躍を積み重ねてきてこられた鶴雅グループの活動に心よりお祝いを申し上げます。地域に密着しながら、常に的確に時代の動きに向き合ってきたその活動と理念には深く敬意を表します。

私の活動のテーマは地方の活性化です。距離のハンデイがある地方では大都市圏のような集積のメカニズムは生まれず、活性化に向けた取り組みは難しい命題です。そこでは国への支援を求めただけでなく、自らの資源を活かしながら自立していく意欲と知恵が欠かせません。それは教科書やマニュアルのない高度な応用問題であり、実践的に地域とともに挑戦の経験を積み重ね、そ

こから解決に向けての技法を学んでいくことが欠かせません。

私は、釧路の地で長く活動を続けてきましたが、その中でも阿寒湖温泉地域の皆さんと一緒に活動した経験は貴重なものであり、私の研究活動を支えている大きな財産となっています。またの将来に向けてのプランづくり、快適な観光地づくりに向けての交通システム、まちづくりの財源確保など、様々な課題に一緒に取り組んできました。

阿寒湖温泉のまちづくりの活動の場には、いつも大西雅之社長の顔があり、また、厳しい局面の議論においても、地域の将来のことを考えて今後は我慢しよう、今こそしっかりと挑戦していこうと

後に続く人たちが、大西流の作品づくりの原点を学び、地に付いた更なる実践活動に邁進出来るかどうか...これからの大西さんの仕事に期待する。

いうそのメッセージからは、常に目先ではなく次世代に阿寒湖温泉地域をどのようにつないでいくかという地域への深い愛着と研ぎ澄まされた洞察力が感じられました。そこに阿寒湖温泉地域の発展を願い、地域づくりに取り組み、地域とともに生きる鶴雅の精神があるように思います。

マリモが生息し、原始の面影を色濃く残しながら、アイヌの人々と共生する阿寒湖の空間の価値には図り知れない可能性があります。鶴雅の皆さんの独創力とチームワークでその潜在力を二つひとつ形にして進化し、阿寒から世界に飛躍していかれることを心より期待しています。



北海道大学公共政策大学院特任教授
釧路市顧問 前釧路公立大学学長

小磯 修二氏